

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第2回 学区別会議（小津学区）

日時：平成25年8月21日（水）
19：30～21：30
場所：小津会館

次 第

1. あいさつ
2. 説明
 - 本日の進め方
 - 守山まるごと活性化プランの内容と検討方法
3. 意見交換（テーブル毎に）
 - 地域の特徴、良いところ
 - 地域の宝ものさがし
4. 結果の発表・共有
5. 次回の予定など
 - 第3回 学区別会議は9月9日（月）19：30から

守山まるごと活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 小津学区 】

H250807 現在 敬称略

No.	自治会	名前		
1	金森	沢井 進一	さわい しんいち	男
2	金森	寺田 恭章	てらだ やすあき	男
3	金森	堀 家隆	ほり いえたか	男
4	三宅	三品 長一郎	みしな ちょういちろう	男
5	三宅	田中 昇治	たなか しょうじ	男
6	三宅	田中 健一	たなか けんいち	男
7	大林	中西 雅義	なかにし まさよし	男
8	大林	吉田 則夫	よしだ のりお	男
9	大林	木瀬 みよ子	きせ みよこ	女
10	欲賀	寺田 康夫	てらだ やすお	男
11	欲賀	奥村 正	おくむら ただし	男
12	欲賀	寺田 守	てらだ まもる	男
13	欲賀	池田 仁美	いけだ ひとみ	女
14	森川原	寺田 博重	てらだ ひろしげ	男
15	森川原	森田 好次	もりた よしつぐ	男
16	森川原	森田 廣	もりた ひろし	男
17	山賀	松村 茂	まつむら しげる	男
18	山賀	猪飼 博雅	いかい ひろまさ	男
19	山賀	堀尾 和子	ほりお かずこ	女
20	山賀	井本 滋美	いもと しげみ	女
21	杉江	杉江 清作	すぎえ せいさく	男
22	杉江	前田 智史	まえだ さとし	男
23	杉江	木村 正治	きむら まさはる	男
24	三宅稲葉	井上 猛	いのうえ たけし	男
25	三宅稲葉	村松 孝夫	むらまつ たかお	男
26	三宅稲葉	浜砂 秀紀	はますな ひでのり	男
27	金森山柿	神谷 一郎	かみたに いちろう	男
28	金森山柿	渡部 哲夫	わたべ てつお	男
29	金森山柿	神谷 ゆう子	かみたに ゆうこ	女

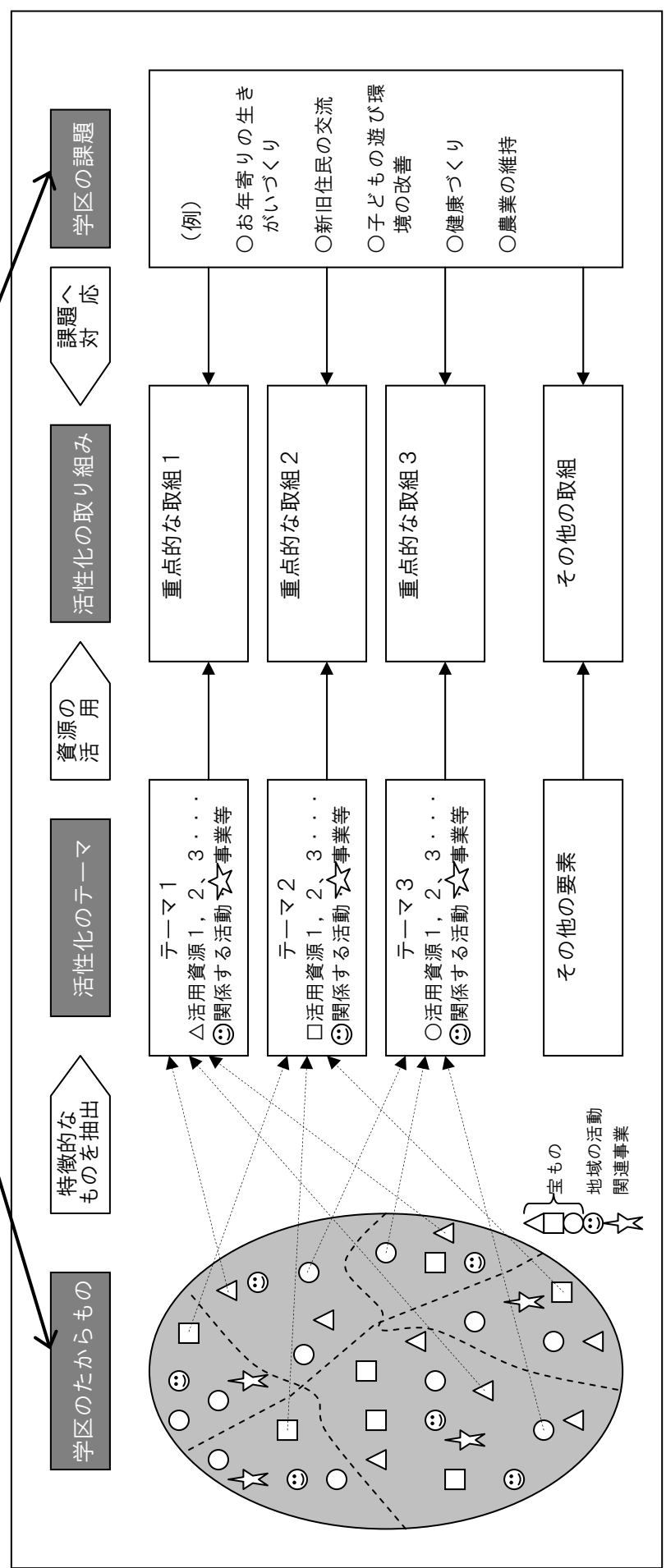
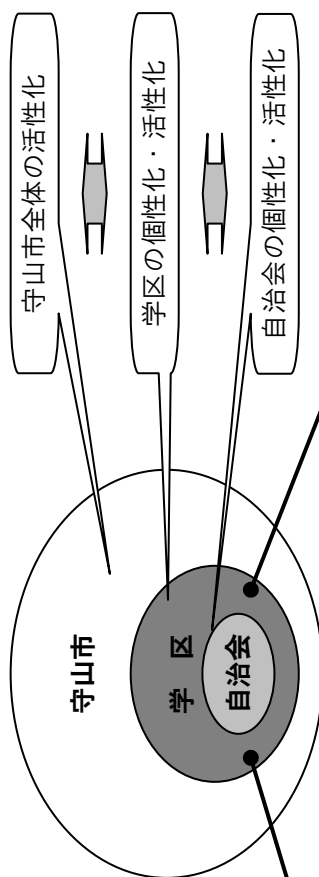
事務局

- ・濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・川上 肇 ・中島 勉 ・中島史郎
- ・坪内稔夫 ・吉原史雄 ・足立慎也
- ・田渕誠一 ・小野田敦 ・貞松純子 ・倉嶋祐介

「守山まるごと活性化プラン」 検討の考え方

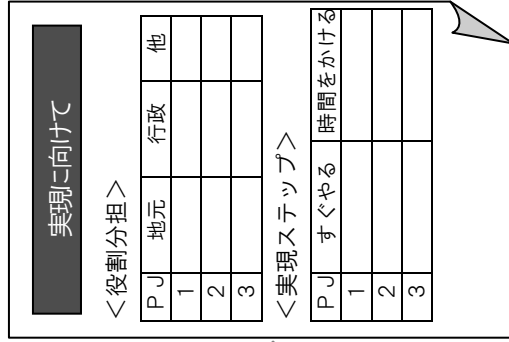
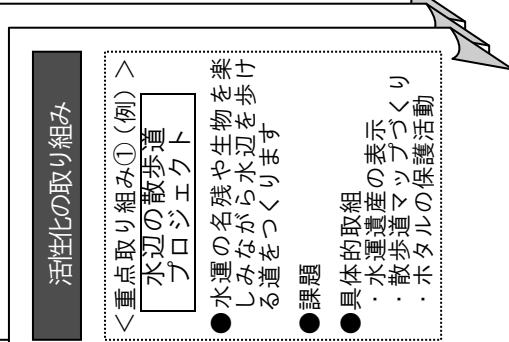
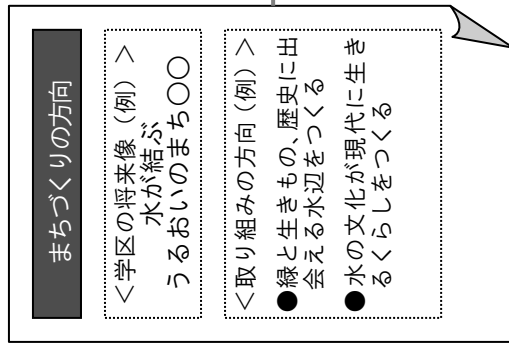
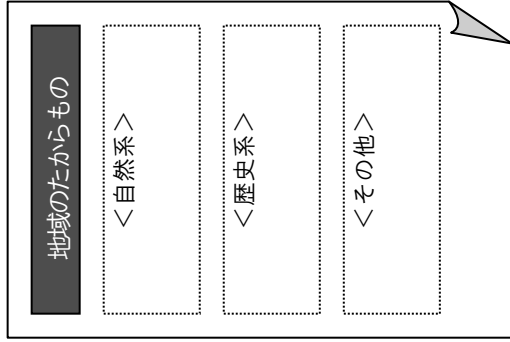
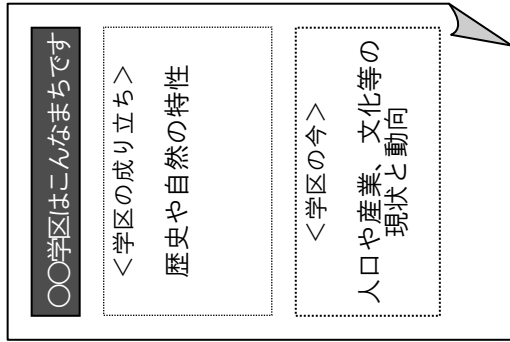
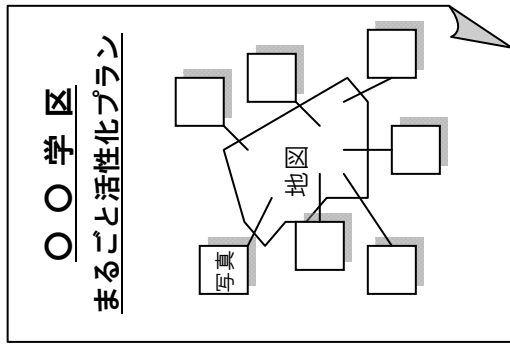
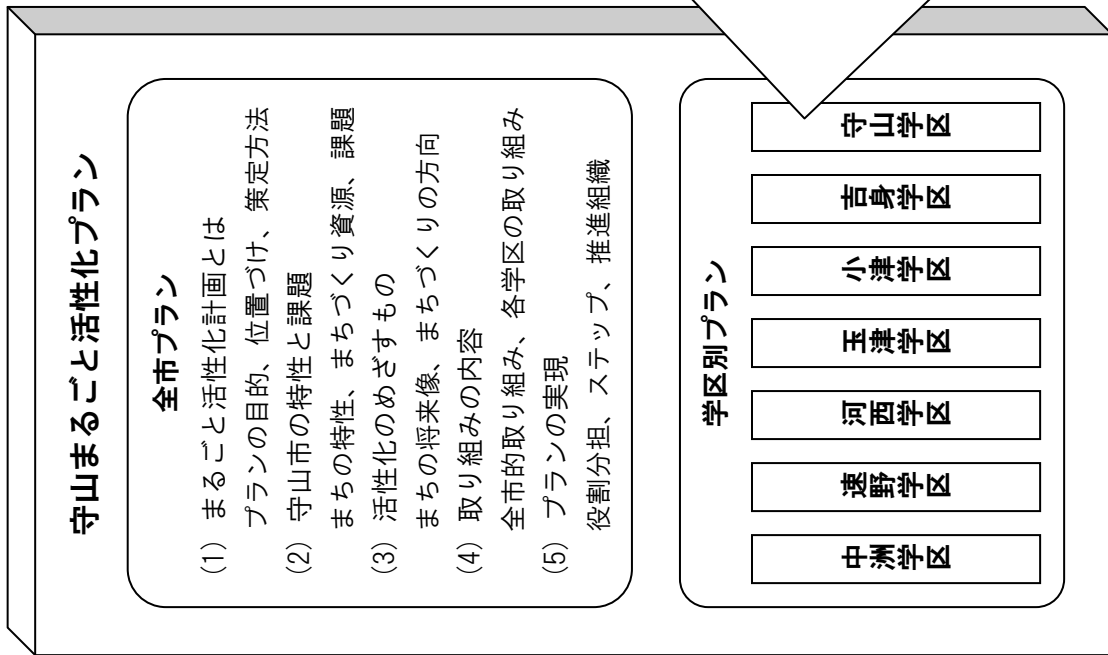
守山市まるごと活性化計画

- 目的
地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組み、地域や守山市への『愛着と誇り』の醸成をめざす。
- 位置づけ
○ 活性化に向けた具体的な取り組みのとりまとめ
○ 地域と行政が連携し、プラン策定、プラン実行を行う
○ プランの事業は5~10年間で順次事業化
- 検討の視点
○ 歴史資源や自然資源等を活用した活性化
○ 魅力的な地域創造による愛着と誇りの持てるまちづくり
○ 人とひとの絆の強化、地域コミュニティの活性化

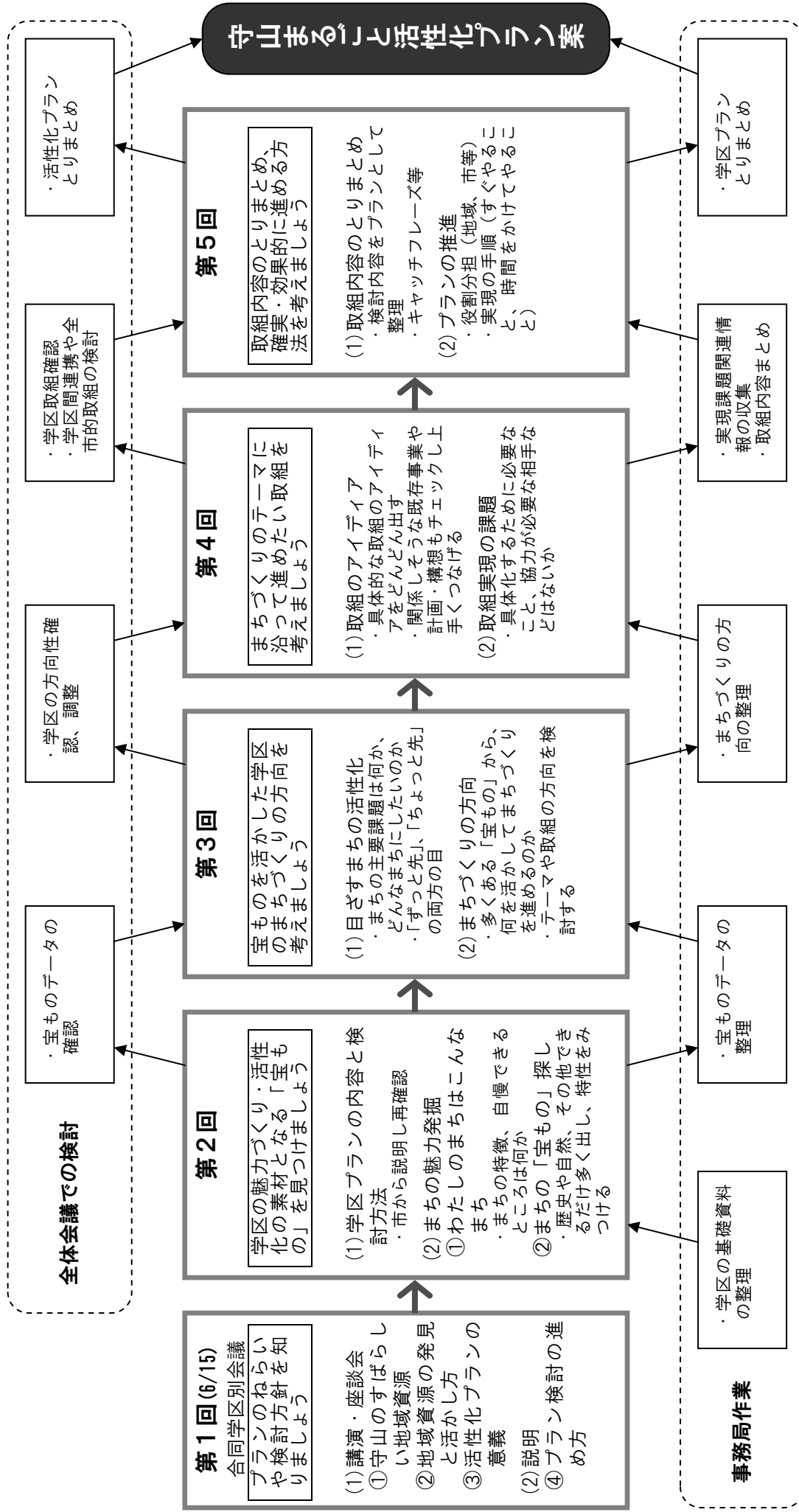


「守山まるごと活性化プラン」完成イメージ

学区別プラン内容イメージ (ボリュームは各学区8頁程度を想定)



学区別会議の進め方



※これは基本的な流れを示したものであり、学区の状況に応じて各回の検討内容が変わる可能性があります

小津学区の 地域資源一覧

小津学区のたからもの

●祭り・風習

- ・長刀振りく小津神社



●寺院

- ・水渡神社
- ・慶先寺
- 【筋後光正面阿弥陀如来画像、親鸞聖御影】
- ・山賀・薬師堂
- ・金神社
- ・岩崎神社
- ・小津神社
- 【本殿・宇迦乃御魂命坐像、岩風呂、三之宮本殿】
- ・蓮生寺【本堂、賞賛浄土仏受経】
- ・熊野神社
- ・金森御坊【石像懸所宝塔】
- ・善立寺【織田信長朱印状】
- ・薬師堂【仏頭】
- ・護摩堂



●史跡・城址・古墳

- ・欲賀城跡
- ・金森城跡
- ・山賀城跡
- ・三宅城跡
- ・大林城跡
- ・欲賀寺跡
- ・庭塚古墳
- ・赤野井湾遺跡



●石仏・記念碑・建造物等

- ・蓮如手植柳（山賀）※
- ・北川家蔵※



▲水関連

- ・新守山川（自転車道・遊歩道整備）
- ・蓮如池
- ・杉江地区農業集落排水処理施設
（地域での活用可能施設に変更可能）
- ・山賀地区農業集落排水処理施設
（地域での活用可能施設に変更可能）
- ・赤野井湾
- ・小津袋
- ・井戸跡
- ・三津川下流の宝塔基磁石
- ・水止め石
- ・野洲浦港跡



▲自然

- ・市民運動公園（整備計画）
- ・もりやま芦刈園
- ・照養寺のオハツキイチョウ
- ・八幡神社のサカキ・ヤブニッケイ・ムクロジ
- ・熊野神社のナギ
- ・欲賀神社のヒノキ
- ・善立寺のミツマタ
- ・運動公園のミクリ
- ・金神社のアカマツ
- ・慶先寺のイチョウ
- ・ホタル



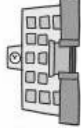
●道路

- ・新守山川沿い自転車道※
- ・湖南幹線整備※
- ・志那街道
- ・馬街道



■公共施設・産業等

- ・立命館守山中高
- ・市民ホール
- ・ほたるの森資料館（賑わい・交流施設増築）
- ・国枝バラ園
- ・漁業
- ・東洋インキ
- ・大同塗料
- ・市民交流ゾーン（地区計画）※
- ・水質改善に向けた取り組み（赤野井湾）



■その他

- ・酒井栄一（絵画）

※地図表示なし

小津学区

歴史街道マップより

小津学区の見どころ

守山市西域に位置する小津学区は琵琶湖に面しており、対岸の比叡山や比良山系の美しい景色を眺望することができます。

『日本書紀』安閑天皇二年（535年）に「近江国葦浦屯倉」の記載が見られますが、「屯倉」とは大和朝廷の領有地で、近江国葦浦屯倉の葦浦とは現在の草津市芦浦、屯倉は三宅（町）として現在に名を残していると考えられていて、小津学区の開発の古さを物語っています。中・近世には、織田信長、あるいは蓮如など日本の歴史に大きな影響を与えた人物が小津学区に足跡を残していますし、近世以前、比叡山への参詣で賑わった「志那街道」、年貢米などの運搬に利用された「馬街道」は琵琶湖の湖上交通と連絡し、人々の往来や物資の流通に重要な役割を果たしてきました。小津学区とは、交通の要衝として文化を発展させた地域で、小津神社をはじめ、数々の文化財や歴史遺産、そして自然を今もなお、保持している地域です。

1. 金神社



こんじんじや

金神社は県立守山高校の西側にある金森町の鎮守。阿弥陀如来像が御神体として祀られていると伝えられる。

境内の2本のアカマツは幹回り2mを越え、市内でも数少ない大樹である。

2. 金森御坊



応永二十三年（1416）、川那辺弥七郎矩厚は存如に帰依し、道西と名乗った。道西は、室町時代後期に大阪を追われた蓮如を金森に迎えて、道場（御坊）を構え、教化に努めた。現在の本堂東側に道西旧跡の顕彰碑が建てられている。

3. 「蓮如の逆さ葺き」

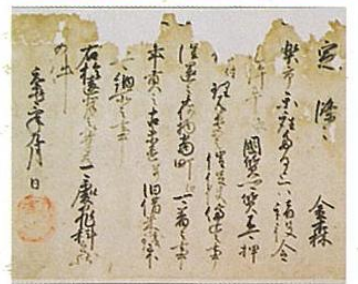
金森道場、あるいは懸所とも呼ばれた寺院。今は見る事ができないが、御坊の屋根は茅葺きで、「蓮如の逆さ葺き」という逸話が残っている。その昔、蓮如が屋根の葺き替えを手伝ったが、上下逆さまに手渡すのに遠慮して、逆さに葺いたことからこう呼ばれた。

4. 金森懸所宝塔



金森御坊の境内、本堂の南側に安置された石造宝塔。基礎を四石として外面に孔雀を刻んでいる。軸石には柱や扉の彫刻がある他、屋根石は反りが少なく、宝輪も完存している。鎌倉時代の石造宝塔として、国内三大名塔の一つと言われる。

5. 織田信長朱印状



元亀三年九月、織田信長は金森に築市楽座令を出す。諸役、免許の特権（非課税）、往還の荷物は金森を通過集散する流通規制策、年貢や借米銭の債務破棄の特権が与えられるという内容である。このことによって元亀の合戦で荒廃した金森が繁栄することになる。善立寺所蔵。

6. 金森城跡



金森町の中央から南側にかけての位置にその所在が推定される城跡。「城ノ下」などの小字名が残っている。

織田信長が元亀三年（1572）にここに拠点を置いた一向宗と戦い、攻め落とした城。現在も竹藪に土塁が保存されている。

7. 井戸跡



城ノ下団地の入り口、くすのき通りの歩道に鎌倉時代初めの井戸跡が保存されている。現在は説明板が設置されているだけで見ることはできないが、井戸は川原石を積み上げて枠をつくり、内部に縦板を八角形状に組み、湧水を汲み上げていた。

8. 三津川下流の宝塔基礎石



県道金森線とくすのき通りの交差点から北へ100mの地点の道路西側の河川は一本の水路が二つに分かれている。

鎌倉時代の宝塔の台石が分水石の基礎に使用されていたことがわかり、この場所に安置されている。

9. 蓮如池



金森御坊東側約50m先の民家の敷地に小さな池がある。

伝承によると蓮如が杖で地面を突いたところ、水が湧き出したことから「蓮如池」と名付けられた。そしてどんな旱魃でも干上ることなく水をたたえていたと伝えられる。

10. 蓮生寺本堂



真宗の古刹で、本堂は江戸時代初期の元和元年(1615)の再建である。軒高や屋根が低く、真宗寺院としては古い形を保っていることから県指定文化財に指定された。昭和61年に修理が行われ、江戸時代初期の建築が再現された。三宅道場とも呼ばれた。

11. 水止め石



蓮生寺山門への参道入り口両側に縦に溝が彫られた石が一对建っている。洪水時に石の溝に戸板をはめて水の侵入を防止した。

12. 称賛浄土仏撰受経



称賛浄土経とは阿弥陀経の異訳である。奥書によると、蓮生寺の称賛浄土経は、天平宝字七年(773)に中将姫が願主となって奈良当麻寺で一千巻書写されたうちの一卷と伝えられる。黄麻紙に謹厳な文字で書写されている。奈良時代の経本として秀品である。

13. 三宅城跡



蓮生寺一带に想定される城跡。現在も寺東側の竹藪に土塁が保存されている。元龜二年(1571)、織田信長の宗教弾圧に蜂起した門徒に対して金森攻めを行った時に出城となったが、金森城と同時に陥落した。その後、信長は比叡山の焼き討ちを行った。

14. 熊野神社



三宅町の東端に鎮座する神社で、小さな本殿には将軍地蔵が安置され、本殿前には中世の荘園である湯生荘の文字のある灯籠が安置されている。神社境内には、神木であるナギの他、クスノキ、ケヤキなど樹令を重ねた古木が多く生育している。

15. 薬師堂の仏頭



三宅町の中央北側にある薬師堂には国指定重要文化財である仏頭が安置されている。桧材の一木造りで彩色と金箔は落ちていますが、穏やかな面相をしている。現在は首から下が復元され、薬師如来として信仰されている。

16. 大林城跡



大林町集落の西辺に位置する八幡神社の境内に一段高い場所があり、大林城の推定地になっている。城主は不明。また、神社境内の神木であるサカキは幹回り116cm、高さ約10mで市内最大のサカキである。

17. 欲賀城跡



欲賀城は欲賀町集落の西側にある一段高い畑地に推定されている城跡である。伝承では、豊臣秀吉に従った本間氏の居城と言われている。発掘調査では、中世(鎌倉～室町時代)の集落跡が確認されている。

18. 欲賀寺跡



欲賀寺は白鳳期の寺院として、この一带に寺域が推定されている。浄光寺(欲賀町)には「欲賀寺縁起」が所蔵されている。大和(奈良県)大安寺の流起資材帳にも関連した記載もみられる。大津市北部で発見される方形瓦が出土しているが、詳細は不明。

19. 水渡神社



欲賀町集落の南辺に位置する神社で、「みくまり」神社という。小さな祠で、城陽市(京都府)の寺田から分祀したと伝えられる。

20. 慶先寺



山家(山賀)道場とも呼ばれた古刹。蓮如の旧跡で直筆の十字名号や親鸞上人御影などの什物が保存されている。また、境内の収蔵庫脇のイチョウは幹回り195cm、樹高17mと巨木である。

21. 筋後光正面阿弥陀如来画像



慶先寺に伝わる絹本着色親鸞聖人御影は、親鸞が二狭間の礼盤に、蓮如が高麗縁畳にそれぞれ連座する画像で、全国的にも数少ない貴重な画である。裏書によると文明七年(1475)五月十六日に下付されたことがわかる。

また、絹本着色筋後光正面阿弥陀如来画像は、蓮華座の上に立つ阿弥陀如来の光背から放射状にひろがる後光が描かれている画像で、室町時代初期の作風が窺われる。

共に市指定文化財である。

22. 親鸞聖人御影



23. 山賀・薬師堂



自治会館横の山賀・薬師堂は、薬師講が守っている小堂。

本尊は薬師如来立像と龍王が祀られている。

かつて村々では、焰魔講、観音講、薬師講などの「講」が組織され、伝世する尊像が信仰されていた。

24. 山賀城跡



山賀町集落の西側の民家は一段高い敷地と屋敷周りに堀を備えている。琵琶湖に近いこともあるが、中世の武士の館を残存する姿であろう。

26. 小津神社本殿



広大な原生林のような森を備えた古社で、延喜式神名帳記載の神社(式内社)である。三間社流造りの本殿は国指定重要文化財で、社伝によると現在の社殿は大永年間に再建されたもので、素朴さと華やかさを併せ持つ室町時代の建築様式を示している。

25. 岩崎神社



岩崎神社は浜街道沿いの森川原町集落東端にある小さな神社である。境内は一段高くなっているが、周辺の発掘調査で江戸時代の屋敷跡があったことがわかっている。

27. 宇迦乃御魂命坐像



小津神社の御神体として本殿に祀られている木造宇迦乃御魂命坐像は、像高約50cmの一木造りの彩色像である。仏教の盛行と神仏習合思想の高揚によって神像が造られるようになったが、松尾神社、薬師寺とともにわが国三神像の一つにあげられる平安時代の秀作である。

28. 小津神社岩風呂



境内の社務所前の庭に、長さ1.2m、幅80cm、高さ65cmの大きさで内部をくり抜いている石がある。

これは中世の貴族などが使った風呂で、水を張り、焼けた石をいれて湯を沸かしたものである。

29. 小津神社長刀振り



毎年5月5日に奉納される長刀振りは長刀、シロッコ、横笛、鉦、タボオ太鼓、音頭取りが行列をつくり、賑やかに取り行なわれる。この例祭はその昔、水害で流された御神体を湖から迎えるという故事による。サンヤレは「幸在れ」から変化したもので、サンヤレ祭りと呼ばれる。

30. 小津神社長刀振り保存館



現在、長刀踊りは小津、玉津学区の8自治会で持ち回りがされているが、「長刀振り保存館」は御輿や長刀踊りの道具を保管、展示するため、昭和53年に建てられた。本殿に向かって左側にある。

31. 小津神社三之宮本殿



小津神社の大鳥居を潜って参道を進むと左側に杉江町自治会館がある。その裏手に三之宮本殿が祀られている。一間社流造りの本殿で、中世末期の安土桃山時代の建築様式を残している。三之宮だけが境内から離れて祀られる。

32. 護摩堂



護摩堂は現在、杉江町集落のほぼ中央に位置しているが、元は小津神社境内にあった。明治の神仏分離令しんぶつぶんりれいによって境外のこの場所に移されたと言われる。

堂内には、仏涅槃図ぶつねはんずや小仏像が安置されている。

33. 庭塚古墳



金森町山柿団地西側の小さな林があるが、庭塚古墳と呼ばれている。周辺部の調査で古墳の形は前方後円墳ぜんぽうこうえんぶんと考えられ、幅約10mの周濠が巡っていることがわかっている。昭和49年には水路改修工事で埴輪はにわが出土している。

34. 志那街道



京、江戸を結ぶ中山道の他に、琵琶湖の湖上交通も重要な道であった。

志那街道は守山宿から金森、大門、横江、長束、片岡を経て志那港（草津市）に至る道で、対岸の下坂本、大津に着いた後に京に上る。志那街道は江戸初期まで盛行していた。別名、比叡山街道ともいう。

35. 馬街道



金森町で志那街道から分かれて琵琶湖に向かって真っ直ぐに伸びる人工道路で、中～近世、年貢米などの物資を運ぶ牛馬うまかいどうの往来が激しかったことから、「馬街道」と呼ばれるようになった。しかし、杉江町の東側では、ほ場整備によって道筋が失われつつある。

小津学区の指定文化財

国指定文化財 地図に●で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
4	石造懸所宝塔	建造物	鎌倉	大 14. 4.24	守山市(管理団体)	金森町	要連絡
15	木造仏頭	彫刻	平安	明 42. 4. 5	蓮生寺	三宅町	//
26	小津神社本殿	建造物	室町	明 39. 4.14	小津神社	杉江町	
27	木造宇迦乃御魂命座像	彫刻	平安	明 42. 4. 5	小津神社	杉江町	非公開
29	近江のケンケト祭り・長刀振り	無形民俗		昭 59.12.20	小津神社長刀踊保存会	杉江町	

県指定文化財 地図に●で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
5	織田信長朱印状	書跡	安土桃山	平 10.6.19	善立寺	金森町	要連絡
10	蓮生寺本堂	建造物	江戸	昭 59.3.30	蓮生寺	三宅町	//
12	称讃浄土経	書跡	奈良	昭 49.8.26	蓮生寺	三宅町	//

市指定文化財 地図に●で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
11	蓮生寺境内	史跡	江戸	昭 52.4.30	蓮生寺	三宅町	
21	絹本着色筋後光正面阿弥陀如来画像	絵画	室町	昭 56.4.24	慶先寺	山賀町	要連絡
22	絹本着色親鸞聖人御影	絵画	室町	昭 56.4.24	慶先寺	山賀町	//
31	小津神社三之宮本殿	建造物	室町	昭 45.5.28	小津神社	杉江町	

小津学区 自治会別人口推移（平成5年から平成25年まで）

	平成5年			平成10年			平成15年			平成20年			平成25年		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
金森	1,470	1,408	95.8%	-62	1,360	96.6%	-48	1,551	114.0%	191	1,574	101.5%	23	101.5%	
三宅	743	698	93.9%	-45	723	103.6%	25	691	95.6%	-32	665	96.2%	-26	96.2%	
大林	732	664	90.7%	-68	626	94.3%	-38	605	96.6%	-21	566	93.6%	-39	93.6%	
欲賀	921	910	98.8%	-11	898	98.7%	-12	1,015	113.0%	117	1,399	137.8%	384	137.8%	
森川原	566	498	88.0%	-68	477	95.8%	-21	414	86.8%	-63	369	89.1%	-45	89.1%	
山賀	404	395	97.8%	-9	384	97.2%	-11	375	97.7%	-9	350	93.3%	-25	93.3%	
杉江	605	589	97.4%	-16	573	97.3%	-16	538	93.9%	-35	488	90.7%	-50	90.7%	
三宅稲葉	443	406	91.6%	-37	364	89.7%	-42	310	85.2%	-54	298	96.1%	-12	96.1%	
金森山柿	218	228	104.6%	10	219	96.1%	-9	200	91.3%	-19	194	97.0%	-6	97.0%	
合計	6,012	5,796	96.4%	-216	5,624	97.0%	-172	5,699	101.3%	75	5,903	103.6%	204	103.6%	

学区別人口推移（平成5年～平成32年）

	平成5年		平成10年		平成15年		平成20年		平成25年			
	人口数	増減数	人口数	増減率	人口数	増減数	増減率	人口数	増減数	増減率		
守山	14,299	1,904	18,926	113.3%	2,723	22,566	116.8%	3,640	24,063	119.2%	1,497	107.3%
吉身	12,976	1,247	14,956	109.6%	733	15,618	105.1%	662	16,280	104.4%	662	105.0%
小津	6,081	5,796	5,624	95.3%	-172	5,699	97.0%	75	5,886	101.3%	187	103.7%
玉津	4,532	4,507	4,443	99.4%	-64	4,220	98.5%	-223	4,025	94.9%	-195	95.8%
河西	10,853	11,649	12,087	107.3%	434	13,099	103.7%	1,012	13,444	108.3%	345	103.5%
速野	8,396	9,565	10,585	113.9%	1,020	11,928	110.6%	1,343	12,469	112.6%	541	105.6%
中洲	3,116	2,983	2,891	95.7%	-92	2,799	96.9%	-92	2,675	96.8%	-124	95.4%
合計	60,253	64,926	69,512	107.7%	4,586	75,929	107.0%	6,417	78,842	109.2%	2,913	104.6%

	平成27年		平成32年			
	人口数	増減数	人口数	増減率		
守山	25,025	962	27,404	103.9%	2,379	109.5%
吉身	15,536	-744	15,452	95.4%	-84	99.4%
小津	5,708	-178	5,609	96.9%	-99	98.2%
玉津	3,907	-118	3,649	97.0%	-258	93.3%
河西	13,745	301	14,111	102.2%	366	102.6%
速野	13,816	1,347	15,042	110.8%	1,226	108.8%
中洲	2,624	-51	2,476	98.0%	-148	94.3%
合計	80,361	1,519	83,743	101.9%	3,382	104.2%

※ 平成27年、32年の人口統計値については市が作成した「第5次守山市総合計画」で表示された数値を参照しています。

学区別人口推移の数値をグラフ化したものになります。

